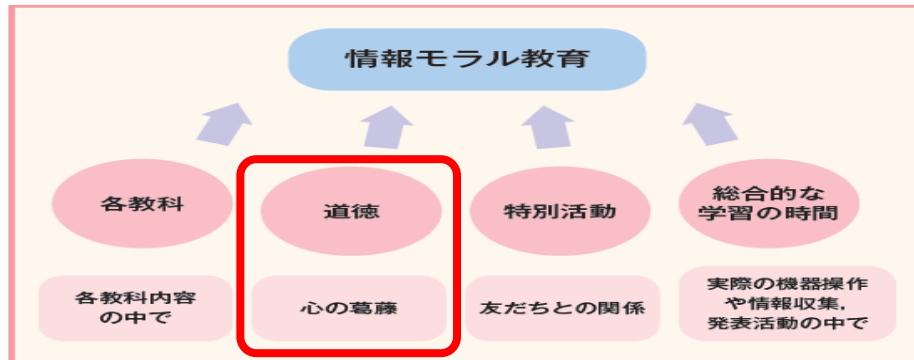


指導のポイント

1 本時の主題に係る生徒の実態

本校でも、生徒間のトラブルの多くが携帯電話やスマートフォンのSNSが原因となっている。安易な書き込みや何気ない言葉により、誤解が生まれたり、感情の行き違いが生じたりして、結果的に人間関係のトラブルにつながる事象が起きている。

2 道徳の時間と情報モラル教育



ここからはじめる情報モラル指導者研修ハンドブック
(平成22年 財団法人コンピュータ教育開発センター)

道徳の時間に情報モラルを身に付けさせるための大切なポイントは、「学習指導要領に示された道徳の内容を指導する際に、情報モラルの視点を取り入れながら、道徳的価値の自覚を深める。」こと、そして留意点すべきこととして、「情報機器の使い方やインターネットの操作、危険回避の方法やその際の行動の具体的な練習を行うことにその主眼をおくのではない。」ことを確認して指導をおこなうこととした。

3 指導方法の工夫

①資料について

学年によっては、リアルさを重視して、テレビ番組の再現ドラマを資料として授業を行った。しかし、動画視聴で時間をかなり費やしたため、3年生は読み物資料を使った。資料自体は、友情をテーマにしたものだが、コミュニケーションツールとしてのケータイやスマホが登場し、これを利用して情報モラルに触れることを考えた。

②指導の流れについて

導入では、本校の人間関係のトラブルの多くが、ケータイやスマホのSNSの書き込み等によるものであることを提示し、生徒が興味・関心を持てるように工夫した。

発問は、主人公であるアキラの気持ちの動きを中心に設定した。情報モラルに関わる発問は特に設定はしていないが、主人公が親友に不信感を持つ場面では、ケータイ・スマホの有無やそれに頼ったコミュニケーションへの疑問を持たせるような発問を設定した。そこでは、ケータイやスマホの使い方や操作など実際の具体的な行動については、敢えて触れないこととした。

終末においては、主人公の過ちや勘違いがケータイをめぐるものであることを再確認し、コミュニケーションツールとしてのケータイやスマホの特徴や使い方についても生徒の意見を求めるようにした。